

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第279集

岩村田遺跡群

柳堂遺跡Ⅱ

長野県佐久市岩村田 柳堂遺跡Ⅱ発掘調査報告書

2021. 3

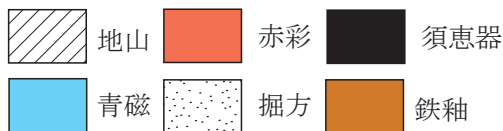
佐久市教育委員会

例言

1. 本書は、長野県佐久建設事務所が行う道路拡幅工事に伴う岩村田遺跡群柳堂遺跡Ⅱの発掘調査報告書である。
2. 調査原因者 長野県佐久建設事務所 所長 中田英郎
3. 調査主体者 佐久市教育委員会
4. 遺跡名及び調査面積 岩村田遺跡群 柳堂遺跡Ⅱ（IYMⅡ） 400㎡
5. 所在地 佐久市岩村田字下宿 651-5 ほか
6. 調査期間 令和2年9月1日～10月23日（現場発掘作業）
令和2年10月26日～令和3年3月（報告書作成作業）
7. 調査担当者 富沢一明
8. 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡例

1. 遺構の略記号は、住居址（H）・土坑（D）
竪穴建物址（Ta）・溝（M）である。
2. 挿図の縮尺については、挿図中にスケールを示した。
3. 遺構の標高は遺構ごとに統一し、水系標高を「標高」とした。
4. 土層の色調は、1988年版『新版 標準土色帖』に基づいた。
5. 挿図中のスクリーントーンは以下のことを示す。



Ⅱ区発掘調査状況

目次

例言・凡例・目次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

1. 経過と立地
2. 調査体制
3. 調査日誌
4. 遺構・遺物の概要
5. 標準土層
6. 調査の方法

第Ⅱ章 遺構と遺物

1. 竪穴住居址
2. 竪穴建物址
3. 溝状遺構
4. 土坑
5. ピット

第Ⅲ章 調査のまとめ



第1図 柳堂遺跡Ⅱ位置図

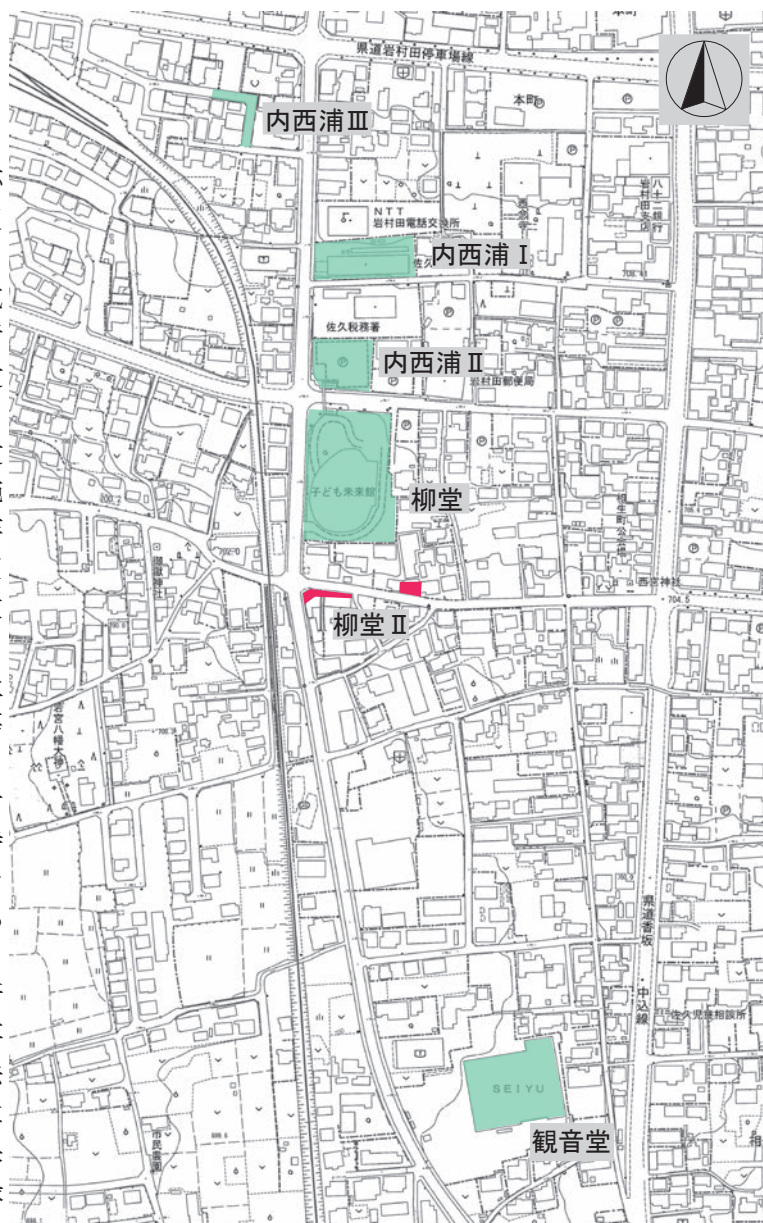
第 I 章 発掘調査の経緯

1. 経過と立地

柳堂遺跡Ⅱは、佐久市岩村田に所在し、岩村田遺跡群の南東よりに位置する。遺跡は、湯川を望む台地上に立地し、台地周辺の海拔は703 m前後を測る。

本遺跡の周辺は、岩村田の市街地が形成されており、各種開発により発掘調査が行われている。特に、北側に近接する柳堂遺跡は平成10年に5200㎡が発掘調査され、園池のある中世の館跡が調査され、出土遺物はいわゆる「カワラケ」をはじめ青磁碗や天目茶碗、注目される遺物として銀装笄付簪が出土している。また、内西浦遺跡Ⅲからは佐久市域で希少な5世紀後半の竪穴住居址が調査され、住居内より一括投棄されたような形で大量の土器が出土した。土師器坏を中心に須恵器坏身、須恵器大甕等が出土し、祭祀の片づけ後の姿とも想定される。今回の調査周辺部分の中世所産と考えられる遺構の発見が多い地域であり、特に今回の調査地点の道路は近世岩村田宿を通る「中山道」が西に向かうルート上にあたる。

今回、遺跡群内において佐久建設事務所より交通の安全性向上の為に県道拡幅工事が計画され、市教育委員会に文化財保護法94条の通知があった。市教育委員会では試掘・確認調査を行った結果から遺跡の保護措置がとれない拡幅部分を中心に、記録保存目的の発掘調査を行うこととなった。



第2図 周辺遺跡位置図

2. 調査体制

調査受託者	佐久市教育委員会	教育長	榑澤晴樹				
事務局	社会教育部長	三浦一浩					
	文化振興課長	東城 洋					
	企画 幹	岡部政也					
	文化財調査係長	山本秀典					
	文化財調査係	小林眞寿	羽毛田卓也	富沢一明	上原 学	久保浩一郎	
調査員		浅沼勝男	小林妙子	依田好行	中澤 登	小島 真	
		橋詰勝子	橋詰信子	赤羽根篤	横尾敏雄	桐原久人	
		松本仁宣	高野園美	箕輪由紀	堺 益子	船田和夫	
		柳澤孝子	清水律子	大矢志慕	堀籠保子	堀籠まゆみ	
		羽毛田利明					

3. 調査日誌

- 令和元年 6月18日 佐久建設事務所より土木工事等のための埋蔵文化財発掘の通知。
6月24日 長野県教育委員会へ市教育委員会より元佐教文振第1203-2号土木工事等のための埋蔵文化財発掘の通知について(副申)
6月28日 長野県教育委員会より元教文第8-94号にて周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について(通知)
9月18日 佐久建設事務所より埋蔵文化財調査費概算見積依頼が提出。
令和2年 6月3日 佐久建設事務所と市教育委員会により埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結。
9月1日～10月23日 記録保存目的による開発対象地の発掘調査を行い、引き続き報告書作成業務を行う。
令和3年 3月 調査報告書を刊行する。
記録類・出土品を整理保管し、すべての業務を終了する。

4. 遺構・遺物の概要

遺構	竪穴住居址	2軒(弥生後期)	土坑	24基
	竪穴建物址	1基(中世)	溝状遺構	1本
	単独ピット	146個		

遺物 弥生土器(箱清水式) 須恵器(坏・甕) 陶磁器類 古銭 五輪塔

今回の調査は拡幅対象の道路を挟んで北側と南側を調査した。調査地点周辺は西側の交差点付近がわずかに高く、東側と西側に向かって地形が落ち込んでいく状態であった。西側寄り調査区をⅠ区・Ⅱ区、北側調査区をⅢ区と命名した。遺構の概要はⅠ・Ⅱ区からは弥生後期の箱清水期と考えられる住居址が2軒確認された。また、北東から北西に伸びる溝状遺構は弥生土器片も出土したが、土師器や須恵器坏も出土しており、所産時期は古代と考えられる。大型の円形土坑は出土遺物から近世所産の遺構も含まれている。Ⅲ区は小型の方形ピット群が検出され、北側で調査が行われた柳堂遺跡の中世遺構群がこの付近まで伸びていることが確認された。Ⅲ区の東側は黒色土が確認され地形が落ち込むことから、低地が広がることが予想できた。

5. 標準土層

今回の調査地点は南方向に僅かに傾斜する台地上で、基本層序は2層に分かれる。Ⅱ層上面が遺構確認面である。しかし、後世のカクランが激しい部分、すでにⅡ層の浅間P1層が削られ、下層の浅間火山灰層が確認面となった部分もあった。確認面深さは地表より30～50cmほどであった。

第Ⅰ層 10YR4/1 褐灰色土 耕作土

第Ⅱ層 10YR5/6 黄褐色土 浅間P1層

6. 調査の方法

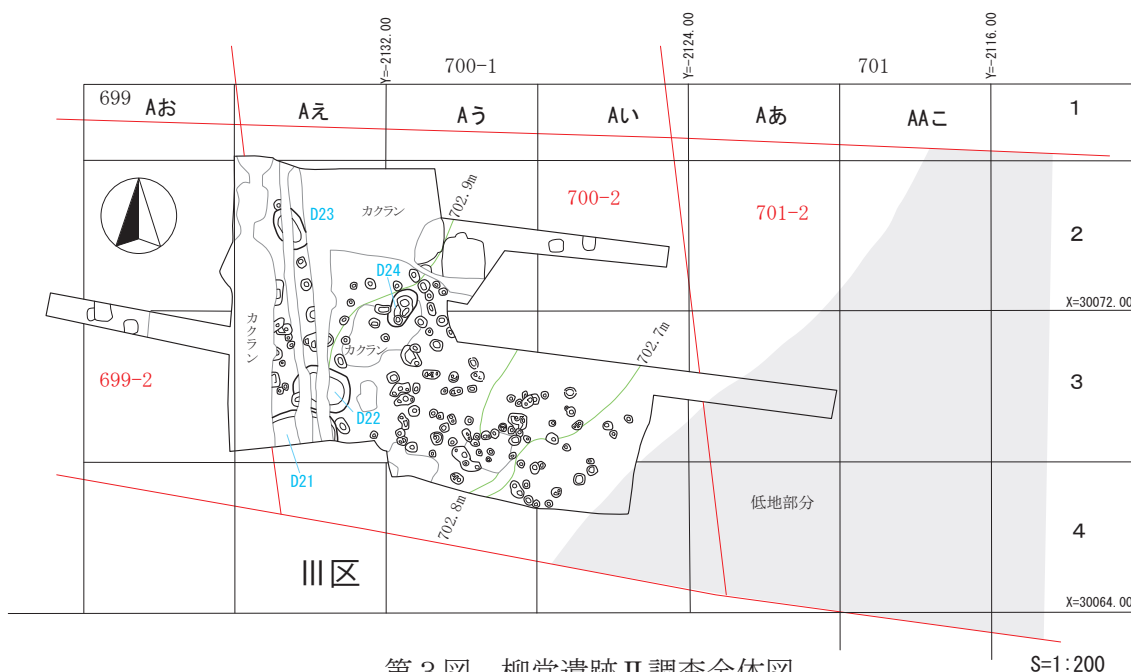
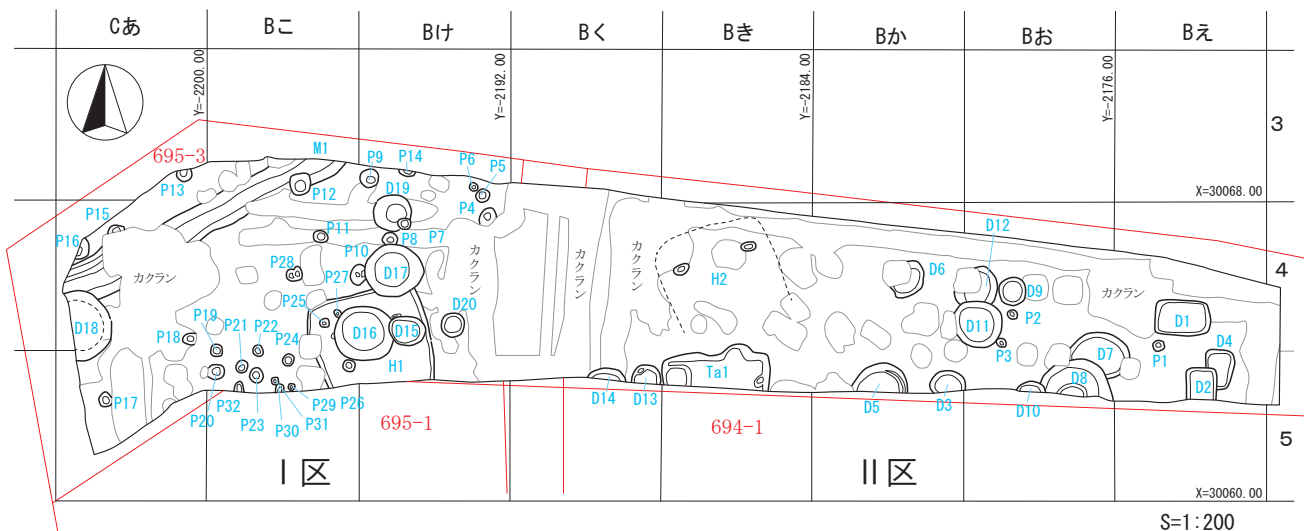
遺構調査・遺構測量

住居址は均等に4分割し、対面する2区画を掘り下げ土層の観察・記録を行った後完掘し、床面を精査し、柱穴・カマド等を適宜分割し、土層の観察・記録を行い、最終的に平面の記録を行った。

遺物は分割した各区毎に取り上げ、床面上の遺物に関しては連続するNo.を付け3次元の記録を行い取り上げた。土坑は長軸方向に沿って2分割し、半裁により土層の観察・記録を行った後完掘した。遺物は遺構No.で一括した。溝址は短辺方向に任意の場所で区分し、土層を観察・記録した。遺物は区毎に取り上げた。遺構外の遺物はグリッド毎に取り上げた。平面図・断面図ともに調査区内に設定した基準杭を利用した遣り方測量により調査担当及び調査員が実施し、縮尺は1/20を基本とした。

遺構・遺物の整理等

遺物洗浄は竹ブラシを用い手でおこない、室内で乾燥させた。注記は白色のポスターカラーにより



第3図 柳堂遺跡Ⅱ調査全体図

行い、薄めたラッカーをその上から塗布した。遺物接合はセメダインCを使用し、遺物復元の際の充
 当材はエポキシ系樹脂を用いた。遺物実測は手取りで行った。遺物の保管に際しては報告書を台帳と
 して、報告書掲載遺物と未掲載遺物に区分し、コンテナに分類ラベルを貼り収蔵庫に収納した。遺構
 図面は1/20で測量実測した図を1/40で修正し、遺物は1/1で実測し、それぞれ仮図版を作成した。

写真・報告書

現場での写真は、デジタル一眼レフカメラによるRAW画質モードと、35mm一眼レフカメラによ
 るカラーリバーサルで同一カットを各々記録した。

遺物写真はデジタル一眼レフカメラで撮影し、EPSデータ形式で報告書に使用した。報告書挿図
 はアドビ社製の「イラストレーター」で作成し、表についてはマイクロソフト社の「エクセル」で
 作成した。写真・拓本はアドビ社製「フォトショップ」により補正加工を行った。これらを最終的に「イ
 ンデザイン」により頁単位で編集し、印刷原稿とした。

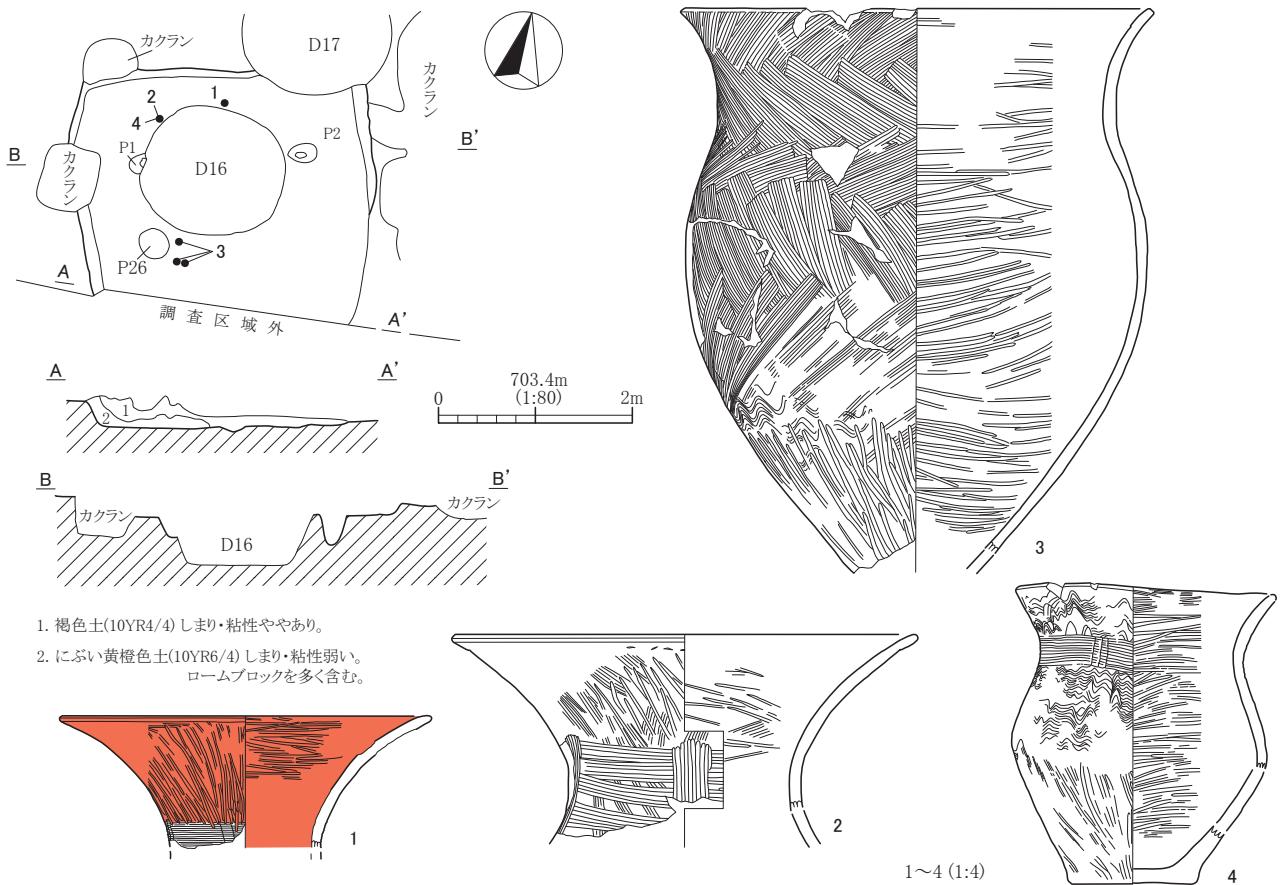
第Ⅱ章 遺構と遺物

1. 竪穴住居址

(1) H1号住居址

本址はⅠ区調査地東側で検出された。住居南は調査区外となる。本址は住居中央にD16号土坑が重複しており、炉等は確認されなかった。形態は方形で、長軸方位はN-17°-Wを測る。規模は検出南北長2.36m、東西長2.86mを測る。床面積は検出部で6.51㎡である。壁の高さは西壁南よりで0.24mを測る。ピットは2ヶ所で検出された。いずれも支柱穴と考えられる。規模はP1は径0.20m・深さ0.30m、P2は径0.18m・深さ0.31mを測る。床は軟質であった。

出土遺物は床面上より出土した。1は無彩の壺口縁部から頸部の部分である。頸部に櫛描横線文と縦線文が施文されている。2は甕で口縁部から胴部中位まで羽状構成の斜走文が施され、胴部下半にわずかに櫛描波状文が施されている。3は小型甕で、頸部に櫛描簾状文と、胴部と口縁部には櫛描波状文が施されている。本址はこれら出土遺物より、弥生時代後期の所産に位置づけられる。

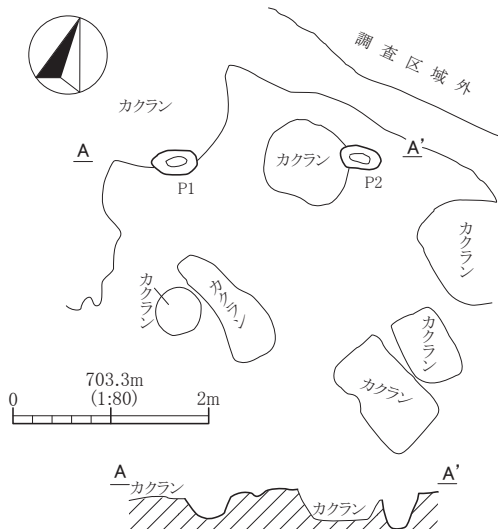


第4図 H1号住居址および出土遺物実測図

(2) H2号住居址

本址はⅡ区調査地西よりで検出された。近世の建物基礎でほとんどの部分が削平を受けており、支柱穴と考えられるピット2か所が確認されたのみである。しかし、規模や配置、周辺部からの弥生後期土器の出土から住居跡と判断した。ピットは2ヶ所で検出された。規模はP1は径0.46m・深さ0.21m、P2は径0.42m・深さ0.35mを測る。

本址からの出土遺物はなかったが、周辺部からの出土土器はいずれも弥生時代後期の箱清水期のものであり、H1号住居址と同じく弥生時代後期の所産と考えられる。



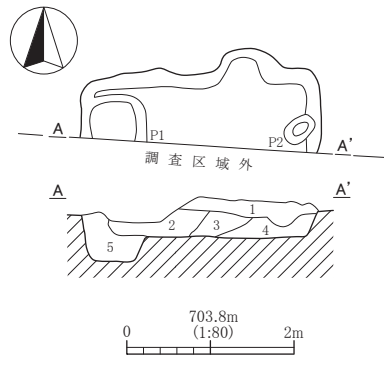
第5図 H2号住居址実測図

2. 竪穴建物址

(1) T a 1号建物址

本址はⅡ区調査地西よりで検出された。南側半分が調査区域外となる。形態は長方形と考えられる。長軸方位はN-2°-Wを測る。規模は検出南北長0.67m、東西長2.57mを測る。床面積は検出部で1.78㎡である。壁の高さは北東コーナーで0.33mを測る。床は軟質であった。ピットは2か所確認され、P1は床下土坑的な形態であった。規模はP1が径0.67m・深さ0.32m、P2が径0.40m・深さ0.14mを測る。

本址からの出土遺物は図示した石製品の他に土鍋片、カワラケ片、染付を含む近世陶磁器片等があったがいずれも小片で図示はできなかった。本址はこれらの出土遺物から近世の構築時期が推定できる。



第6図 T a 1号建物址および出土遺物実測図



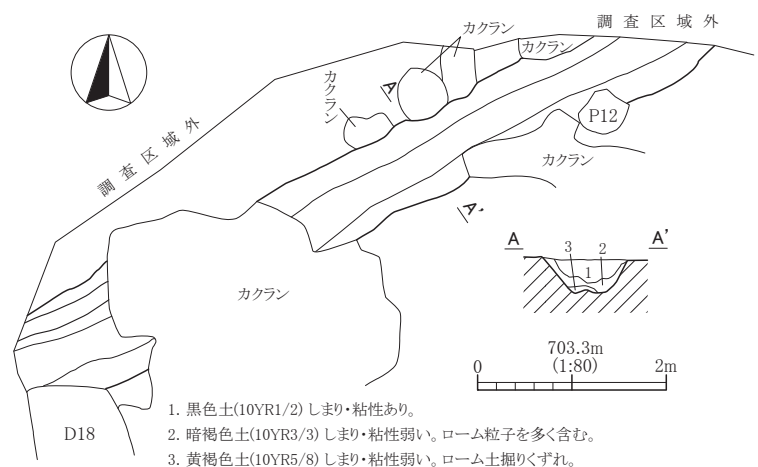
重機によるⅢ区表土剥ぎ状況

3. 溝状遺構

(1) M1号溝状遺構

本址はⅠ区北よりで検出された。北東から南西へ伸びるように検出され、いずれも調査区外に伸びる。断面形態は逆台形で、覆土は自然堆積であった。規模は溝幅が0.85~1.13m・深さ0.35~0.37mを測る。

本址からの出土遺物は先にも触れたが、弥生後期の箱清水期の土器片が出土したが須恵器坏片も出土しており、覆土の状態からも所産時期は古代と考えられる。



第7図 M1号溝状遺構実測図

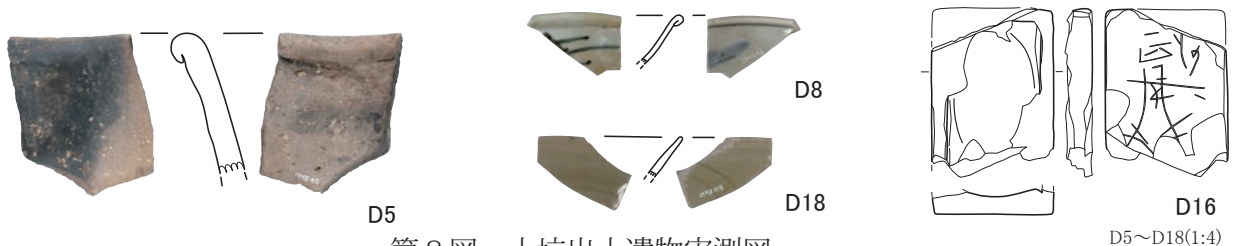
4. 土 坑

土坑は 24 基が検出された。形態は円形や方形様々であったが、Ⅰ区とⅡ区で検出された大型の円形土坑 D5・D8・D15・D16 は壁部分の覆土が硬質化していたり、底面が平坦であったりという共通項が多く、同時代・同一用途の遺構と考えられる。また、D18 はその形態より井戸址と考えられ、安全状完掘はできなかったが、地表下 1.20m で湧水が確認できた。

第 1 表 土坑一覧表

単位(m) < > 検出値

遺構名	形態	検出位置	長軸長	短軸長	深さ	出土遺物
D1	長方形	B-え-4	1.45	0.95	0.35	
D2	長方形	B-え-5	<0.82>	0.80	0.41	平瓦
D3	円形	B-お・か-4	0.88	<0.60>	0.38	染付
D4	長方形	B-え-4・5	1.08	0.72	0.42	
D5	円形	B-か-5	1.45	<0.78>	0.69	染付 火鉢
D6	不整形	B-か-4	1.09	<0.36>	0.23	
D7	不整形	B-え-4・5 B-お-4・5	1.48	<0.97>	0.29	
D8	円形	B-お-5	1.96	<0.98>	0.75	染付
D9	円形	B-お-4	0.77	0.75	0.37	
D10	不明	B-お-5	0.77	<0.27>	0.34	
D11	円形	B-お・か-4	1.36	1.27	0.36	染付 弥生土器
D12	円形	B-お・か-4	1.15	<0.47>	0.25	
D13	不明	B-く-5	0.75	0.44	0.32	
D14	不明	B-く-5	0.97	<0.27>	0.43	
D15	不整形	B-け-4	0.96	0.73	0.14	
D16	円形	B-け-4・5 B-こ-4・5	1.59	1.55	0.66	染付 すり鉢 弥生鉢・壺片
D17	円形	B-け-4	1.55	1.35	0.63	瓦 すり鉢 伊万里
D18	円形	C-あ-4・5	1.74	<1.02>	-	青磁片
D19	不整形	B-け-3・4	<0.90>	<0.78>	0.26	
D20	円形	B-け-4	0.65	0.61	0.23	
D21	不明	A-え-3	<1.64>	<0.99>	0.30	
D22	楕円形	A-え-3	1.50	1.07	0.18	
D23	楕円形	A-え-2	1.15	0.70	0.13	
D24	不整形	A-う-2・3 A-え-3	1.88	1.72	0.12	



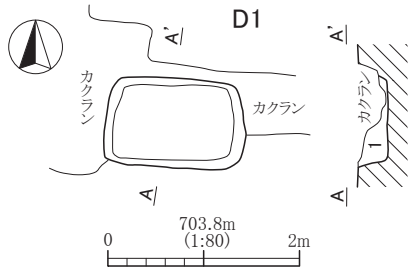
第 8 図 土坑出土遺物実測図

5. ピット

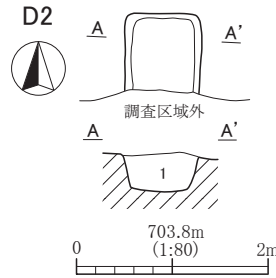
今回の発掘調査ではⅢ区を中心に 146 基の単独ピットを検出した。いずれも小型で、形態は方形が多く、柱痕も確認できたものもある。調査範囲の関係で掘立柱建物址になるものは無かったが、北側の柳堂遺跡のピット群と酷似するため、いずれも中世所産の遺構と考えられる。

第Ⅲ章 調査のまとめ

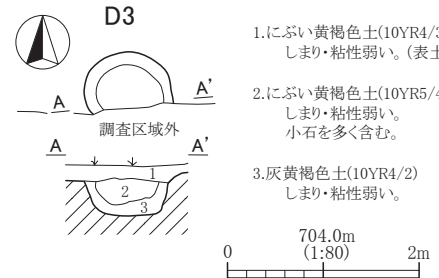
今回の発掘調査は 250 m² という限られた面積の調査であったが、周辺地域の調査を補う形で幾つかの調査成果があった。それらを列記して調査のまとめとしたい。



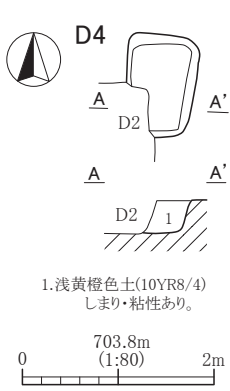
1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまり・粘性弱い。小石を多く含む。



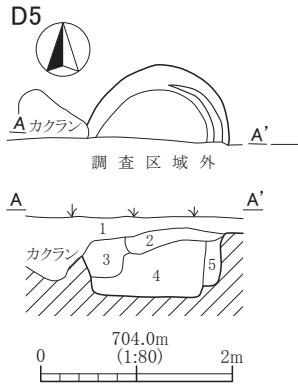
1. 浅黄橙色土(10YR8/4) しまりあり。粘性弱い。褐色土ブロックを含む。



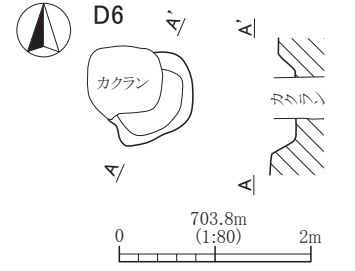
1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまり・粘性弱い。(表土)
2. にぶい黄褐色土(10YR5/4) しまり・粘性弱い。小石を多く含む。
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性弱い。



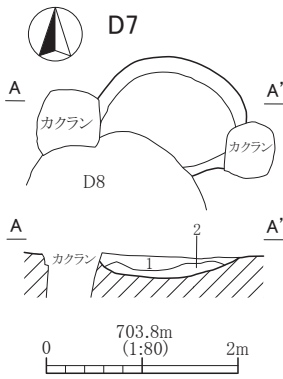
1. 浅黄橙色土(10YR8/4) しまり・粘性あり。



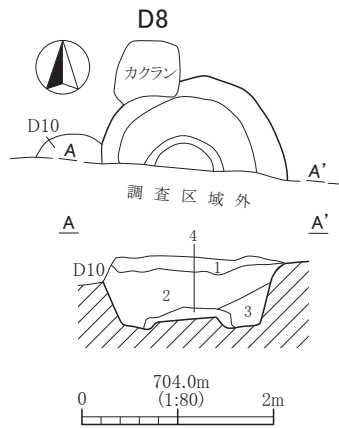
1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまり・粘性弱い。浅黄橙色のロームブロックを多く含む。(表土)
2. 黒褐色土(10YR3/1) しまり・粘性あり。
3. 浅黄橙色土(10YR8/3) しまり・粘性やや弱い。
4. 黒褐色土(10YR3/1) しまり・粘性弱い。褐色のロームブロックを多く含む。石を含む。
5. 黒褐色土(10YR2/2) しまり・粘性ややあり。小石を含む。しまっている。



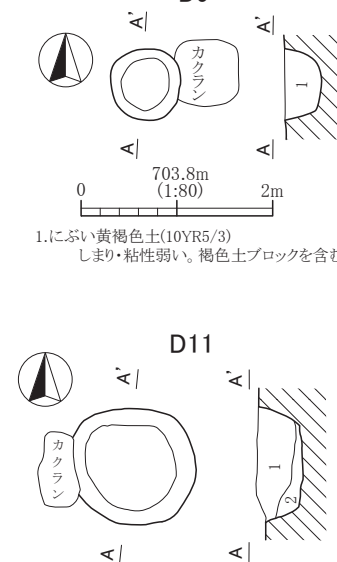
1. にぶい黄褐色土(10YR5/3) しまり・粘性弱い。褐色土ブロックを含む。



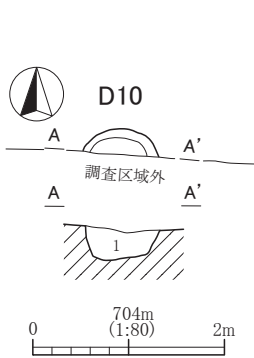
1. 浅黄橙色土(10YR8/4) しまりややあり。粘性弱い。
2. 褐色土(10YR4/6) しまり・粘性弱い。小石を多く含む。



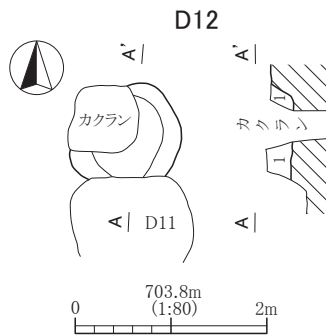
1. 暗褐色土(10YR3/3) しまり・粘性弱い。ローム粒子を多く含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR7/3) しまり・粘性やや弱い。褐色土が互層に入る。
3. にぶい黄褐色土(10YR7/2) しまり・粘性弱い。
4. 黒色土(10YR2/1) しまり・粘性あり。



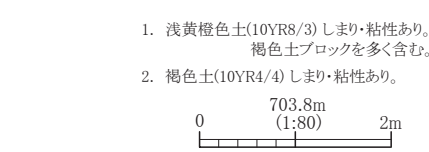
1. にぶい黄褐色土(10YR5/3) しまり・粘性弱い。褐色土ブロックを含む。



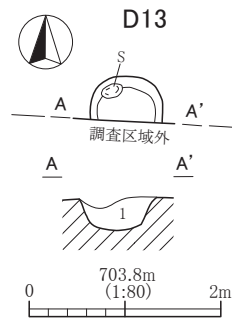
1. 灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性ややあり。ロームブロックを多く含む。



1. 暗褐色土(10YR3/4) しまり・粘性弱い。砂を多く含む。

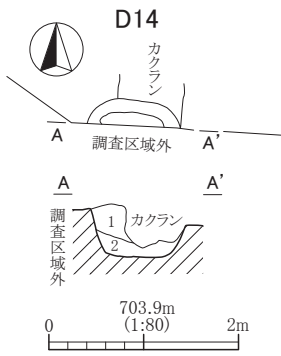


1. 浅黄橙色土(10YR8/3) しまり・粘性あり。褐色土ブロックを多く含む。
2. 褐色土(10YR4/4) しまり・粘性あり。

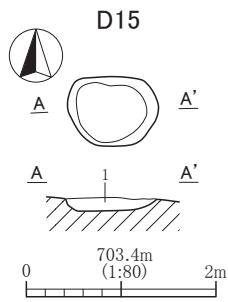


1. にぶい黄褐色土(10YR6/4) しまり・粘性弱い。小石を多く含む。

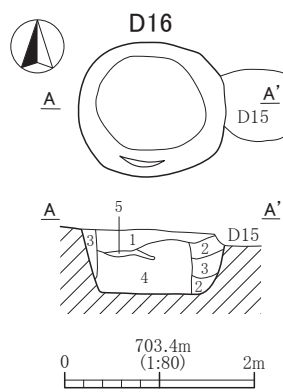
第9図 土坑実測図



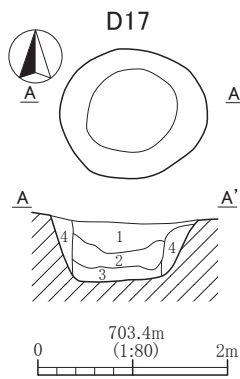
1. 褐色土(10YR4/4) しまり・粘性弱い。サラサラした土。
2. 明黄褐色土(10YR6/6) しまり・粘性弱い。ロームブロックを多く含む。



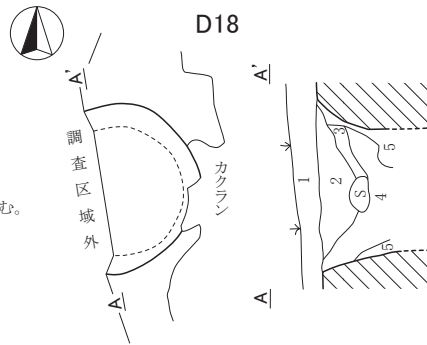
1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまり・粘性弱い。ローム粒子を多く含む。



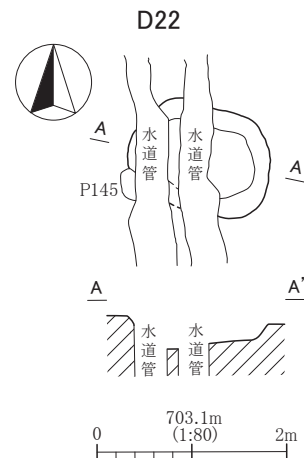
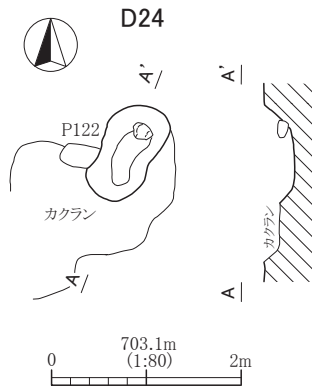
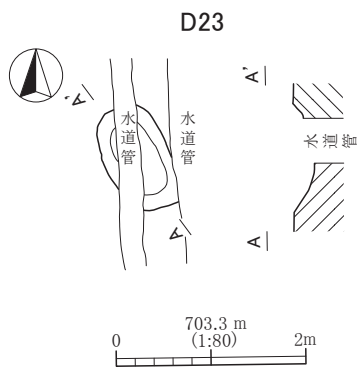
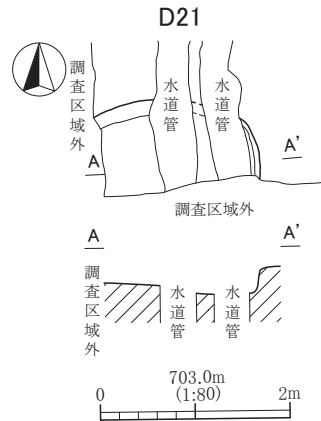
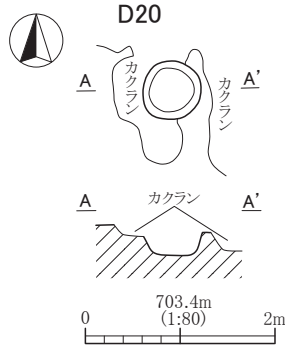
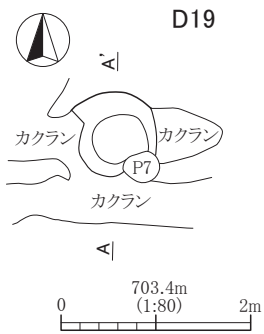
1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまり・粘性弱い。ローム粒子を多く含む。
2. 黄褐色土(10YR5/8) しまり・粘性ややあり。ロームブロックを多く含む。
3. にぶい黄褐色土(10YR5/3) しまり・粘性ややあり。ロームブロックを多く含む。
4. 黒褐色土(10YR2/2) しまり・粘性あり。小石を含む。
5. 明黄褐色土(10YR7/6) しまり・粘性弱い。ロームの崩れ。



1. 暗褐色土(10YR3/3) しまり・粘性ややあり。
2. 黄褐色土(10YR5/6) しまり・粘性弱い。黄色ローム粒子を多く含む。
3. 黒褐色土(10YR3/1) しまり・粘性あり。粘土ブロックを多く含む。
4. 黄褐色土(10YR5/6) しまり・粘性ややあり。ローム粒子を多く含む。



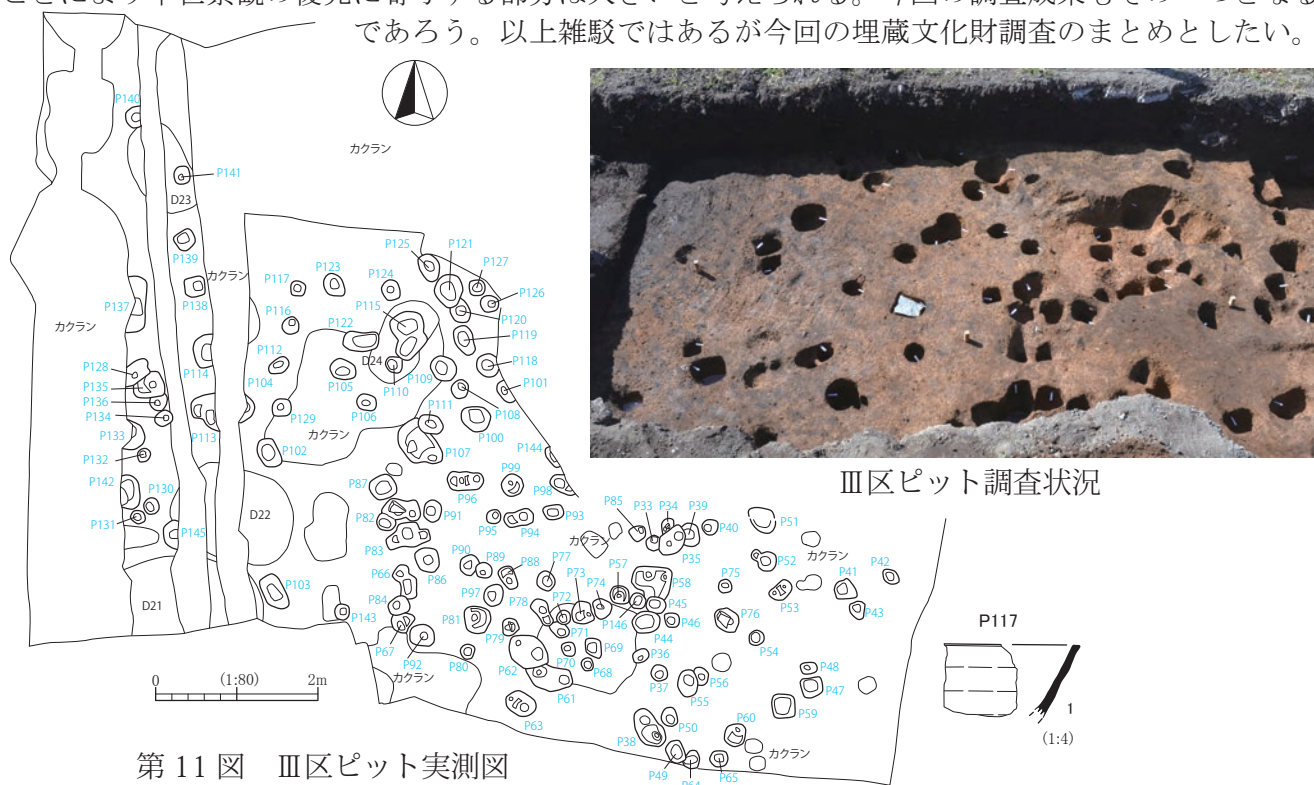
1. 褐灰色土(10YR4/1) しまり・粘性弱い。(表土)
2. 黒褐色土(10YR3/1) しまり・粘性弱い。小石を多く含む。
3. 褐灰色土(10YR6/1) しまり・粘性ややあり。
4. 黒褐色土(10YR2/2) しまり・粘性あり。ピンク色のロームを含む。
5. にぶい黄褐色土(10YR6/4) しまり・粘性弱い。ピンク色のロームブロックを含む。



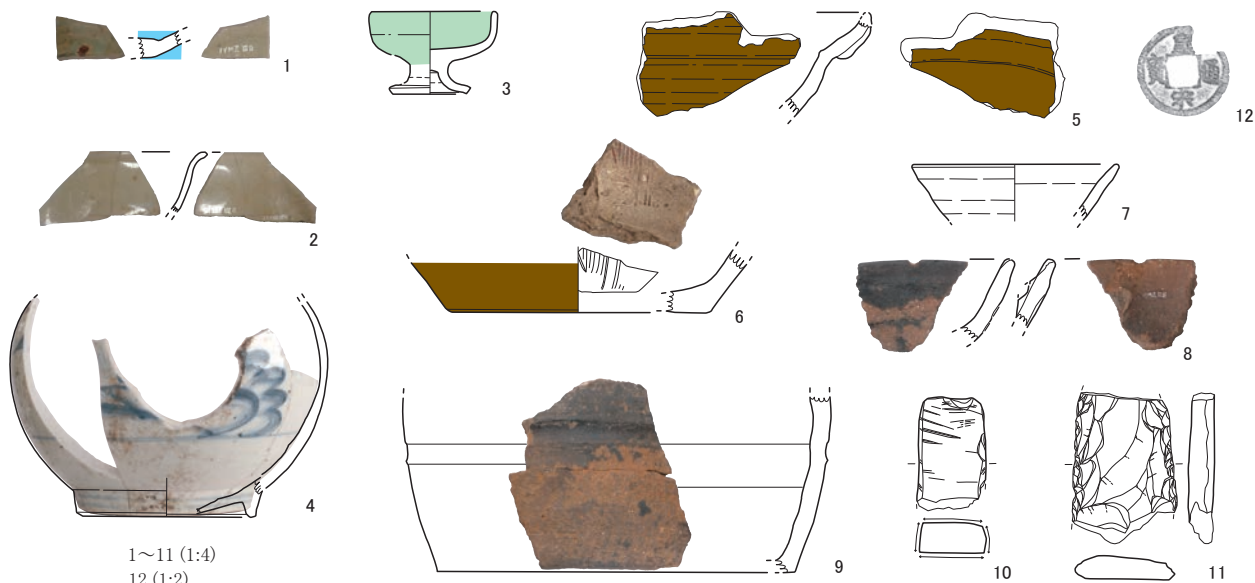
第 10 図 土坑実測図

まず第一は平成10年に行われた柳堂遺跡で検出された中世遺構群が南側まで広がる事が確認されたことである。柳堂遺跡は区画溝を伴う館址としての性格が考えられているが、今回の調査では区画溝は検出されなかった。今回の調査範囲が館内であるかが問題であるが、Ⅲ区の地形は南東側に向けて大きく傾斜しており低地化の様相がうかがえる。現に試掘調査においても湧水が確認できた。このことからⅢ区はすでに館外であり、今回の中世ピット群は館周辺に広がる町家的な部分か、或いは中世でも所産時期が異なる遺構群ともとらえられる。

いずれにしても周辺地域は中世遺構群が濃密に分布するエリアであり、小規模な調査も積み重ねることにより中世景観の復元に寄与する部分は大きいと考えられる。今回の調査成果もその一つとなるであろう。以上雑駁ではあるが今回の埋蔵文化財調査のまとめとしたい。



第11図 Ⅲ区ピット実測図



1~11 (1:4)
12 (1:2)

第12図 Ⅲ区出土遺物実測図



第 13 图 I · II 区出土遺物実測図

第2表 ピット計測表

単位 m ()推定 < >残存

遺構名	出土位置	長径	短径	深さ	形態	出土遺物・重複関係	遺構名	出土位置	長径	短径	深さ	形態	出土遺物・重複関係
P1	B-え-4・5	0.30	0.29	0.08	円形		P74	A-う-3	0.28	0.20	0.30	不整形	
P2	B-お-4	0.25	0.24	0.17	円形		P75	A-い-3	0.20	0.19	0.15	円形	
P3	B-お-4	0.28	0.25	0.08	円形		P76	A-い-3	0.35	0.26	0.22	楕円形	
P4	B-け-4	0.55	<0.47>	0.42	-		P77	A-う-3	0.24	0.23	0.17	円形	
P5	B-け-3・4	0.36	0.35	0.33	円形		P78	A-う-3	0.37	0.16	0.25	不整形	P71より新
P6	B-け-3	0.28	0.21	0.45	楕円形		P79	A-う-3	0.25	0.24	0.24	方形	
P7	B-け-4	<0.40>	<0.37>	0.26	円形	D19より新	P80	A-う-3	0.20	0.18	0.17	円形	
P8	B-け-4	0.41	<0.34>	0.43	円形	D17より古	P81	A-う-3	0.38	0.30	0.36	方形	
P9	B-け-3	0.55	0.45	0.39	円形		P82	A-う-3	0.50	0.30	0.32	不整形	弥生壺
P10	B-け-こ-4	0.51	<0.41>	0.42	不整形	D17より古	P83	A-う-3	0.53	0.18	0.28	不整形	
P11	B-こ-4	<0.41>	<0.35>	0.44	楕円形		P84	A-う-3	0.28	0.24	0.42	円形	P66・67より新
P12	B-こ-3	0.71	0.56	0.17	楕円形		P85	A-う-3	0.22	0.16	0.27	円形	
P13	C-あ-3	0.43	<0.24>	0.17	-		P86	A-う-3	0.33	0.27	0.39	方形	
P14	B-け-3	0.40	<0.13>	0.21	-		P87	A-う-3	0.31	0.28	0.19	方形	
P15	C-あ-4	0.40	<0.17>	0.36	-		P88	A-う-3	0.30	0.19	0.31	長方形	
P16	C-あ-4	0.58	<0.26>	0.26	-	須恵甕 弥生壺	P89	A-う-3	0.23	0.20	0.27	円形	P90より新
P17	C-あ-5	<0.40>	<0.36>	0.26	円形		P90	A-う-3	0.30	<0.20>	0.35	円形	P89より古
P18	C-あ-4	<0.38>	<0.28>	0.37	不整形		P91	A-う-3	0.27	0.23	0.26	円形	
P19	B-こ-4・5	0.35	0.33	0.24	円形		P92	A-う-3	0.35	0.26	0.16	円形	
P20	B-こ-5	0.50	0.41	0.22	円形		P93	A-う-3	0.25	0.18	0.19	方形	
P21	B-こ-5	0.37	0.35	0.27	円形	弥生壺	P94	A-う-3	0.35	0.21	0.26	長方形	
P22	B-こ-4・5	0.31	0.30	0.29	円形		P95	A-う-3	0.19	0.17	0.19	円形	
P23	B-こ-5	0.40	0.37	0.22	円形		P96	A-う-3	0.45	0.20	0.29	楕円形	
P24	B-こ-5	0.37	0.30	0.29	円形		P97	A-う-3	0.30	0.28	0.20	方形	
P25	B-こ-4	0.27	0.21	0.16	円形		P98	A-う-3	0.37	<0.23>	0.14	-	
P26	B-こ-5	0.37	0.33	0.35	円形	H1より新	P99	A-う-3	0.27	0.27	0.36	円形	
P27	B-こ-4	0.22	0.17	0.19	楕円形		P100	A-う-3	0.39	0.30	0.29	円形	
P28	B-こ-4	0.47	0.33	0.30	不整形		P101	A-う-3	0.27	<0.12>	0.18	-	
P29	B-こ-5	0.21	0.20	0.12	方形		P102	A-え-3	0.40	0.27	0.23	楕円形	
P30	B-こ-5	0.23	<0.20>	0.07	-		P103	A-え-3	0.47	<0.30>	0.25	不整形	
P31	B-こ-5	0.21	0.16	0.11	方形		P104	A-え-3	0.32	<0.17>	0.16	-	
P32	B-こ-5	<0.24>	0.19	0.11	-		P105	A-え-3	0.34	0.24	0.25	円形	
P33	A-う-3	0.21	<0.18>	0.24	-	P35より古	P106	A-う・え-3	0.25	0.18	0.29	円形	
P34	A-う-3	0.18	<0.17>	0.24	-	P35より古	P107	A-う-3	0.65	0.25	0.23	不整形	土鍋 P111より古
P35	A-う-3	0.42	0.30	0.33	不整形	P33.34.39より新	P108	A-う-3	0.25	0.19	0.14	円形	
P36	A-う-3	0.22	0.18	0.23	円形		P109	A-う-3	0.33	0.32	0.16	円形	
P37	A-う-3・4	0.23	0.20	0.25	円形		P110	A-う-3	0.21	0.18	0.28	円形	D24より新
P38	A-う-4	0.50	0.29	0.26	楕円形	土鍋	P111	A-う-3	0.33	0.23	0.28	円形	P107より新
P39	A-い・う-3	0.28	<0.16>	0.18	-	P35より古	P112	A-え-3	0.25	0.20	0.23	楕円形	
P40	A-い-3	0.22	0.21	0.12	円形		P113	A-え-3	0.44	<0.28>	0.35	不整形	
P41	A-い-3	0.31	0.24	0.45	不整形		P114	A-え-2・3	0.41	<0.22>	0.13	-	
P42	A-い-3	0.26	0.19	0.14	楕円形		P115	A-う-2・3	0.60	0.37	0.27	不整形	須恵坏 D24より新
P43	A-い-3	0.25	0.21	0.12	不整形		P116	A-え-2	0.22	0.21	0.13	円形	
P44	A-う-3	0.36	0.32	0.19	円形	P45より新	P117	A-え-2	0.20	0.20	-	円形	須恵坏?
P45	A-う-3	0.28	0.25	0.14	円形	P58より新	P118	A-う-3	0.29	<0.26>	0.25	円形	
P46	A-う-3	0.21	0.19	0.19	円形		P119	A-う-2・3	0.39	0.24	0.24	楕円形	
P47	A-い-4	0.33	0.30	0.19	方形		P120	A-う-2	0.27	<0.25>	0.30	-	P121より古
P48	A-い-3・4	0.21	0.21	0.27	方形		P121	A-う-2	0.42	0.36	0.15	円形	P120より新
P49	A-う-4	0.30	0.22	0.27	方形	P64より新	P122	A-う・え-2・3	0.46	0.22	0.20	楕円形	D24より新
P50	A-う-4	0.25	0.23	0.22	円形		P123	A-え-2	0.33	0.27	0.26	楕円形	
P51	A-い-3	0.30	<0.16>	0.18	-		P124	A-う-2	0.27	0.22	0.33	円形	
P52	A-い-3	0.27	0.25	0.30	円形		P125	A-う-2	0.37	0.25	0.35	楕円形	
P53	A-い-3	0.30	0.20	0.29	楕円形	土鍋	P126	A-う-2	0.23	0.23	0.39	円形	
P54	A-い-3	0.21	0.20	0.16	円形		P127	A-う-2	0.23	0.21	0.14	円形	
P55	A-い・う-4	0.35	0.28	0.30	楕円形	P56より新	P128	A-え-3	0.43	0.23	0.37	不整形	P135より新
P56	A-い-3.4 う-4	0.24	<0.21>	0.30	円形	P55より古	P129	A-え-3	0.26	0.23	0.32	円形	
P57	A-う-3	0.25	0.25	0.29	円形		P130	A-え-3	0.23	0.19	0.20	円形	
P58	A-う-3	0.50	<0.40>	0.25	不整形	P45より古	P131	A-え-3	0.23	0.20	0.21	円形	
P59	A-い-4	0.37	0.35	0.17	方形		P132	A-え-3	0.18	0.17	0.23	円形	
P60	A-い-4	0.30	0.21	0.11	円形		P133	A-え-3	0.36	0.16>	0.32	-	
P61	A-う-3・4	<0.63>	0.25	0.36	不整形	P62より古	P134	A-え-3	0.23	0.21	0.31	円形	
P62	A-う-3・4	0.55	0.29	0.33	楕円形	P61より新	P135	A-え-3	0.44	<0.30>	0.22	-	P136より新
P63	A-う-4	0.41	0.22	0.25	不整形		P136	A-え-3	0.26	<0.20>	0.19	円形	P135より古
P64	A-い・う-4	0.22	<0.18>	0.20	円形	P49より古	P137	A-え-2	0.70	<0.15>	0.28	-	
P65	A-い-4	0.25	0.24	0.27	円形		P138	A-え-2	0.25	0.23	0.20	方形	
P66	A-う-3	0.45	0.24	0.24	不整形	P84より古	P139	A-え-2	0.24	0.23	0.16	方形	
P67	A-う-3	0.30	<0.26>	0.40	不整形	弥生壺 P84より古	P140	A-え-2	0.25	<0.20>	0.11	-	
P68	A-う-3・4	0.18	0.16	0.18	円形		P141	A-え-2	0.25	0.20	0.26	円形	D23より古
P69	A-う-3	0.21	0.29	0.22	不整形		P142	A-え-3	0.42	<0.20>	0.15	-	
P70	A-う-3	0.18	0.17	0.23	円形		P143	A-え-3	0.20	<0.20>	0.20	円形	
P71	A-う-3	<0.28>	0.14	0.25	楕円形	P72・78より古	P144	A-う-3	0.28	<0.08>	0.33	-	
P72	A-う-3	0.21	0.18	0.31	円形	P71より新	P145	A-え-3	0.37	<0.15>	0.24	-	D22より新
P73	A-う-3	0.32	0.27	0.30	方形		P146	A-う-3	0.24	0.22	0.14	不整形	

第3表 出土遺物観察表

(cm) (g)

H1	種別	器種	法 量			成形・調整・文様			推定値()残存値<>	
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置	
1	弥生	壺	(19.2)	-	<6.8>	ヘラミガキ→赤彩	頸部 櫛描簾状文(本数不明 2連止) 口縁部 ヘラミガキ→赤彩	回転実測		
2	弥生	壺	(24.0)	-	<11.0>	ヘラミガキ	ハケメ→ヘラミガキ 頸部 櫛描横線文→櫛描垂下文(10本)	回転実測		
3	弥生	甕	(24.4)	-	<29.1>	ヘラミガキ	櫛描波状文→櫛描斜走文→下部ヘラミガキ	回転実測		
4	弥生	甕	13.4	6.3	15.4	ヘラミガキ	櫛描波状文→櫛描簾状文(12本3連止4箇所) →ヘラミガキ	完全実測		
遺構名	種別	器種	法 量			成形・調整・文様			推定値()残存値<>	
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置	
D5-1	瓦質	火鉢	-	-	-	ナデ	ミガキ	破片実測		
D8-1	磁器	染付碗	-	-	-	施釉	施釉	破片実測		
D18-1	青磁	碗	-	-	-	施釉 画花文?	施釉	破片実測		
P117-1	須恵質	鉢	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測		
No.	素 材	器 種	最大長	最大幅	最大厚	重 量	備 考		出土位置	
Ta1-1	石製品	不明	<4.6>	<3.0>	<0.7>	<16.21>	被熱なし 側～裏面欠損 擦痕あり			
D16-1	石製品	硯	<8.6>	<6.2>	<1.4>	<107.48>	被熱なし 上下部欠損 裏面に線刻か?			
I・II Gr	種別	器種	法 量			成形・調整・文様			推定値()残存値<>	
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置	
1	弥生	壺	-	-	<5.1>	ヘラミガキ→赤彩	頸部 櫛描簾状文 口縁部 ヘラミガキ→赤彩	回転実測	II 区	
2	弥生	鉢	-	5.4	<2.3>	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩 底部ヘラミガキ	完全実測	I 区	
3	土師質	火鉢?	(12.0)	(11.4)	(4.5)	ロクロナデ	ロクロナデ→底部切り離し後ナデ	回転実測	I 区カクラン	
4	陶器	染付碗	-	(5.6)	<1.5>	施釉	施釉	回転実測	I 区カクラン	
5	瓦質	すり鉢	(30.6)	-	<5.7>	ロクロナデ→ヨコナデ→すり目	ロクロナデ→ヨコナデ	回転実測	II 区	
6	土師質	内耳鍋	(35.2)	(26.8)	5.6	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	I 区カクラン	
7	土師質	火鉢	(28.7)	-	<11.4>	ヨコナデ	ヘラミガキ	回転実測	II 区	
8	土師質	こん炉	-	(26.0)	<10.4>	ナデ	底部周辺ヘラケズリ→ヘラミガキ→脚貼付 3個か?	回転実測	II 区	
No.	素 材	器 種	最大長	最大幅	最大厚	重 量	備 考		出土位置	
9	石製品	砥石	<7.1>	<4.2>	<3.3>	<163.59>	被熱なし 上部欠損 砥面数5		II 区	
10	石製品	石臼	<26.2>	<20.7>	<11.3>	<5300.0>	被熱なし 径- 芯棒孔径2.5 深さ2.8 挽き手孔(方形)4.0×5.0 深さ5.5 約1/4残存 上臼		II 区	
11	石製品	石臼	<21.7>	<16.2>	<8.0>	<3700.0>	被熱なし 径- 芯棒径(3.3) 約1/4残存 下臼		I 区	
12	石製品	石臼	<32.4>	<16.9>	<9.5>	<4700.0>	被熱なし 径(32.4) 芯棒径- 約1/2残存 下臼 正裏とも条痕と敲打痕あり 二次使用か?		II 区	
13	石製品	五輪塔	20.4	26.7	20.5	15500.0	被熱なし 地輪		I 区	
14	鉄製品	不明	7.1	1.6	0.5	10.38			II 区	
15	銅	古銭	2.8	-	0.1	4.11	寛永通宝 背十一波		II 区	
16	銅	古銭	2.8	-	0.1	4.41	寛永通宝 背十一波		I 区	
17	銅	古銭	<2.5>	-	0.1	<1.24>	寛永通宝		I 区	
18	銅	古銭	<2.4>	-	0.1	<1.35>	寛永通宝		I 区	
19	銅	銅貨	2.3	-	0.1	3.59	一銭 大正七年		I 区	
III Gr	種別	器種	法 量			成形・調整・文様			推定値()残存値<>	
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置	
1	青磁	碗	-	-	-	施釉	施釉	破片実測	III 区	
2	白磁	碗	-	-	-	施釉	施釉	破片実測	III 区	
3	陶器	仏飯	(6.8)	(3.9)	(4.4)	施釉	脚貼付→施釉	回転実測	III 区	
4	磁器	德利?	-	9.6	<11.4>	ロクロナデ	施釉	完全実測(器形のみ)	III 区	
5	陶器	すり鉢	-	-	-	施釉	施釉	破片実測	III 区	
6	陶器	すり鉢	-	(14.0)	<3.4>	すり目	施釉?(さび釉)	回転実測	III 区	
7	土師質	かわらけ	(11.0)	-	<3.4>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	III 区	
8	土師質	焙烙	-	-	-	ヨコナデ ナデ 耳貼付	ヨコナデ	破片実測	III 区	
9	土師質	火鉢	-	(19.0)	<9.3>	ヨコナデ	ヨコナデ スタンプ文あり 外面剥離	回転実測	III 区	
No.	素 材	器 種	最大長	最大幅	最大厚	重 量	備 考		出土位置	
10	石製品	砥石	<6.0>	<3.7>	<1.7>	<63.13>	被熱なし 下部欠損 砥面数4		III 区	
11	石器	打製石斧	<8.0>	<5.6>	<1.3>	<91.97>	被熱なし 基部・刃部欠損		III 区	
12	銅	古銭	2.5	-	0.1	2.99	皇宋通宝 北宋 1038年		III 区	



H 1 号住居址



H 1 号住居址出土遺物



H 2 号住居址



T a 1 号建物址



M 1 号溝状遺構



D 1 号土坑



D 2・4 号土坑

图版 2



D 3号土坑



D 5号土坑



D 6号土坑



D 7号土坑



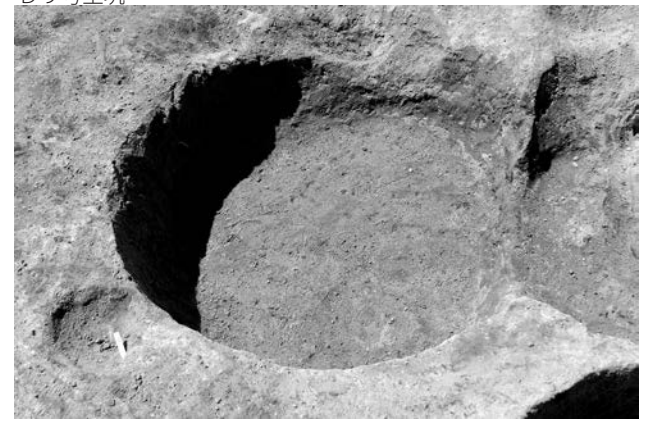
D 8号土坑



D 9号土坑



D 10号土坑



D 11号土坑



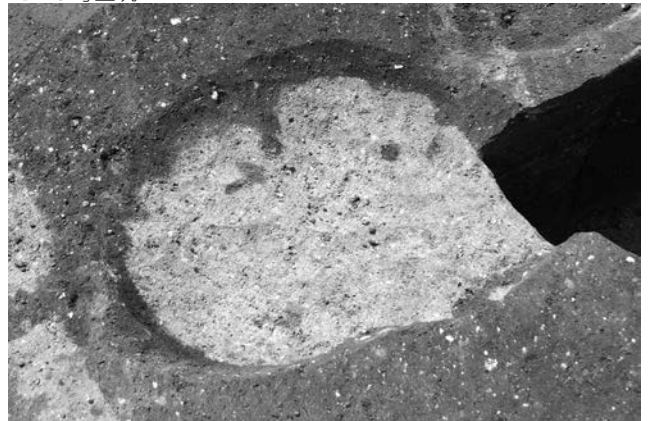
D 12号土坑



D 13号土坑



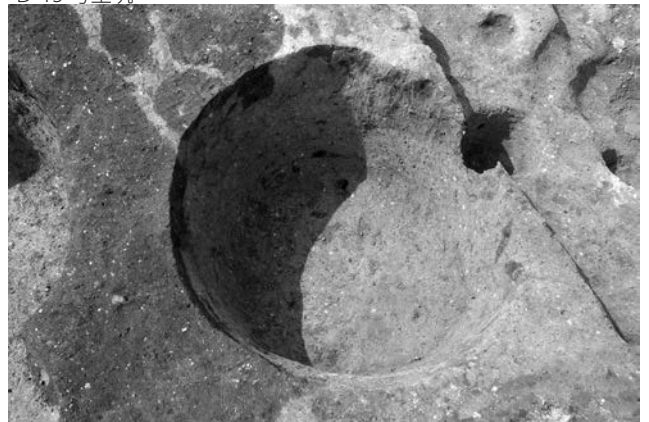
D 14号土坑



D 15号土坑



D 16号土坑



D 17号土坑

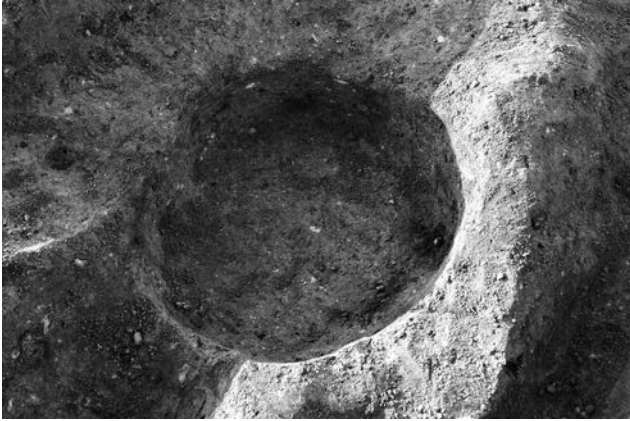


D 18号土坑



D 19号土坑

図版 4



D 20 号土坑



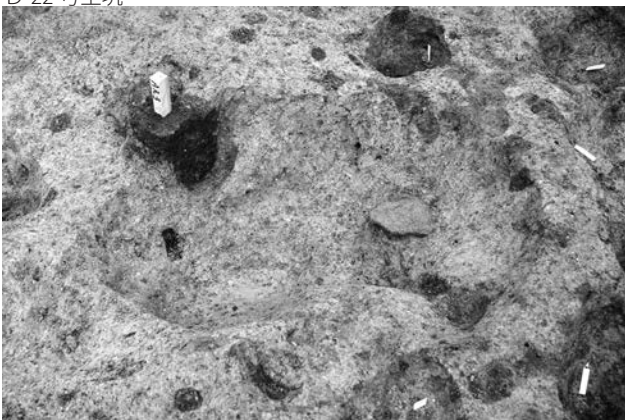
D 21 号土坑



D 22 号土坑



D 23 号土坑



D 24 号土坑



調査区 I 区全景 (西より)



調査区 II 区全景 (東より)



調査区 III 区近景 (北より)



報告書抄録

ふりがな	いわむらだいせきぐん やなぎどういせきに							
書名	岩村田遺跡群 柳堂遺跡Ⅱ							
副書名								
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第279集							
編著者名	富沢 一明							
編集機関	佐久市教育委員会 社会教育部 文化振興課							
所在地	長野県佐久市中込2913 TEL0267-63-5321 FAX0267-63-5322							
発行年月日	2021年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 (㎡)	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
いわむらだいせきぐん やなぎどういせきに 岩村田遺跡群 柳堂遺跡Ⅱ	さくしいわむらだ あざしもじゅく 佐久市岩村田 字下宿	20217	52	36° 16.15	138° 28.33	20200901 ～ 20201023	400	道路拡幅 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
岩村田遺跡群 柳堂遺跡Ⅱ	集落址	弥生 中世 近世	住居址 2軒 竪穴建物址 1基 溝状遺構 1本 土坑 24基	弥生土器 須恵器 陶磁器類 石製品 古銭				
要約	周辺の調査事例と同様に中世と考えられる竪穴状遺構やピット群が検出された。また、弥生時代後期の住居址が発見され、弥生期の集落範囲を想定する資料が得られた。							

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第279集

岩村田遺跡群 柳堂遺跡Ⅱ

2021年 3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市中込3056

社会教育部 文化振興課 文化財事務所

〒385-0051 長野県佐久市中込2913

TEL0267-63-5321

印刷所 キクハラインク有限公司